

胃部検査比較表

種類	特徴	メリット	デメリット	検査ができない人
胃透視 (バリウム)	・バリウム（造影剤）を飲み、レントゲン撮影により、胃や食道・十二指腸の状態を調べる検査。	・胃カメラに比べ、身体的負担が軽い。	・検査後、バリウムの影響で便が硬くなり、便秘になることがある。 ・異常が見つかった場合、最終的に胃カメラによる精密検査が必要となる。	○バリウムアレルギーがある ○腸閉塞の既往歴がある ○妊娠の可能性がある ○妊娠中 ○授乳中 (※2)
胃カメラ	経口	・胃透視では発見できない小さな病変も確認できる。 ・早期がんの発見率は、バリウム検査より高いとされている。 ・異常があれば組織を採取し、詳しく調べることができる。(※1)	・のどへの刺激により、嘔吐反射が起こりやすい。	○妊娠の可能性がある ○妊娠中 ○授乳中 (※2)
	経鼻 (ドックと別日)	・鼻から細い内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査。	・経口胃カメラに比べ、嘔吐反射が軽減される。 ・異常があれば組織を採取し、詳しく調べることができる。(※1)	○妊娠の可能性がある ○妊娠中 ○授乳中 (※2)
	鎮静 (ドックと別日) ※別途料金必要	・胃カメラ前に鎮静剤を注入し、眠った状態で口から内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査。	・眠っている間に検査を受けることができる。 ・異常があれば組織を採取し、詳しく調べることができる。(※1)	・検査後は、注意力および運動機能が低下するため、1～1.5時間程度ベッドでの休息が必要となる。 ・眠気や判断能力の低下により、当日の乗り物の運転はできない。

※1組織を採取した場合、健康保険扱いとなり、追加料金が発生します。

※2授乳中の方は、検査終了後24時間断乳し、搾乳して破棄できる場合に限り、受診が可能です。

※3経鼻、鎮静胃カメラは、別途予約が必要です。人間ドック受診日の10日前までにご予約ください。予約枠に限りがありますので、早目のご予約をおすすめします。